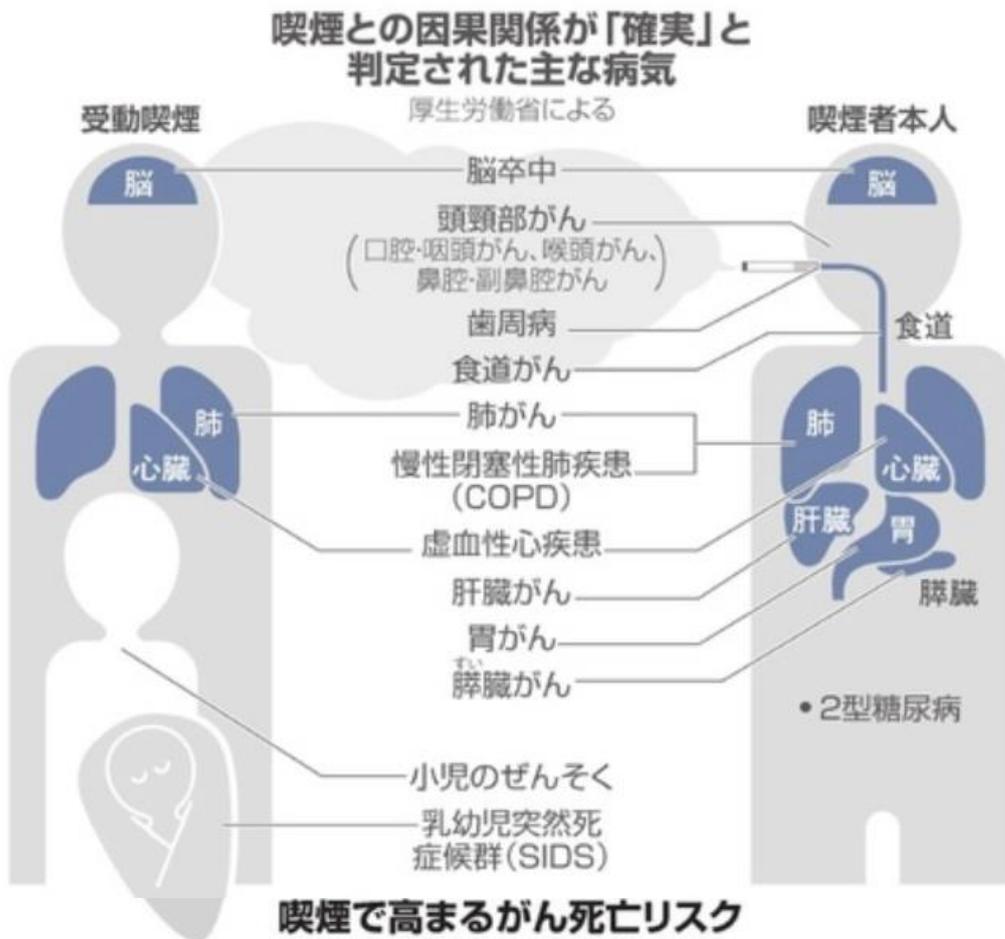


週刊 **タバコの正体**

タバコの煙には5000種類以上の化学物質があり、その中には70種類の発がん性物質も含まれています。喫煙するとそんな物質が体内に入るので病気になる確率は高くなります。

下図にあるように、厚生労働省が喫煙との因果関係が確実と判定した病気は身体の様々なところで発症し、多くの臓器でがんになる確率が高くなっています。そしてがんで死亡する確率も高く、特に肺がんはタバコを吸わない人に比べ4倍も高くなっています。



また、喫煙者本人だけではなく、喫煙者の煙を吸わされた受動喫煙においても同様に発病する危険性が高くなっています。とりわけ幼少期に受動喫煙にあつたと小児ぜんそくになったり、乳幼児突然死症候群の原因になることも知られています。このように、タバコが原因の病気は、まとめてタバコ病と言われほどたくさんあります。

喫煙との因果関係が確実ということは「タバコを吸っていないければ、もしくは誰かのタバコの煙を吸わされていなければ、病気にならなくて済んだはずなのに…」と言えます。

それなら最初からタバコを吸い始めないようにしては、と思いますよね。

産業デザイン科
奥田 恭久

